

二学期の反省

学校だより
【平成二十四年度 十二月号】
薩摩川内市立 西山小学校
「海の子」「百合の子」「風の子」を目指す西山小学校

あすなろ



二学期も「文芸ありがと」でした

校長 長田 郁郎

合同運動会、県民週間、シアノーノー、音楽発表会、合同文化祭、持久走大会など様々な行事があった二学期でした。児童は、行事の度に、練習し、大勢の前で発表し、たくさんを学び、やり遂げた喜びを感じながら大きく成長しました。これらの行事にご協力頂いた保護者や地域の皆様方に深く感謝申し上げます。

皆様にとって、輝かしい新年になりますようにお祈り申し上げます。

冬休みがんばること二学期の反省

四年 中川 桃子

二学期の反省は、運動会で川内ハンヤをうまくおどれなかったことと学習発表会でせりふを忘れたことです。でも、それぞれが楽しかったです。宿題でも漢字をきれいに書いていねいに書いて漢字のテストでも百点をとることができました。

冬休みにがんばることは、たくさんあります。①漢字を忘れないようにする。②晴れた日は外で遊ぶ。③宿題は毎日四ページずつ、朝読み夕読みをする。④一週間に一回は部屋のかたづけをする。⑤夜十時半には寝て、朝七時半にはおきる。⑥イヌのさんぽを十分にはする。この六このめあてをしつかりとまもり楽しい冬休みにしたいと思います。

一学期の反省とがんばったこと、冬休みがんばること

五年 中川 歩

まず二学期の反省は使った物のあとかたづけができなかったことです。使った物は元あった場所にしつかりとどしたしたいと思います。

次に、二学期ががんばったことは運動会です。二人で、一生懸命がんばりました。特に、一輪車に乗りながら、バトンを回すのが少しむずかしかったです。

次に学習面でがんばったことは、漢字のテストで百点をとれたことと、文化祭で長い詩のあんしょうができたことです。

最後に冬休みがんばることは三つあります。一つ目は、宿題をすぐに終わらせることです。二つ目は、漢字の練習をすることです。三つ目は、友だちといっぱい楽しく遊びたいです。それにできたら鹿児島に行つてたくさん買い物をして楽しい冬休みになりたいです。

ふれあい餅つき 12/17

老人クラブ主催の餅つき大会に本校児童2名も参加させてもらいました。馴れた手つきの地域の方と馴れない手つきの児童と対照的で、それもまたほのぼのとした感じがしました。

つきたてのお餅はまた格別の味がしました。



花苗のプレゼント (12/11)

本校では、毎年、学校で育てた花の苗を地域の方へプレゼントしています。年2回実施していますが、今回はサイネリア、桜草、キンセンカ、リビングストーンデージーなど多くの苗を準備しました。風の強いこの地で育てるのは難しいですが、きれいな花を咲かせてほしいと思います。



薩摩川内元気塾 12/13



薩摩川内元気塾が長浜小体育館で行われました。

鹿児島大学教育学部教授牧原勝志先生を招いて「コミュニケーション能力の素地を養う外国語・英語活動について」の演題で講演をして頂きました。

子どもたちは、英語を取り入れたたくさんのゲームに夢中で取り組み、英語の楽しさを味わい、英語のよさを感じ取りました。

避難訓練・集団下校 11/27

火事だけでなく、地震による津波の発生を想定した避難訓練も行いました。学校も約30Mと高い位置に建っていますが、より高い場所に避難しました。

避難終了後、消火器の操作方法の実演訓練も行いました。

強風の日が多いこの西山地区ではくれぐれも火災には気をつけたいといけなことを認識しました。



1月行事予定

- 1日(火) 【祝】 元日, 拝賀式
- 3日(木) 下甌新成人のつどい
- 4日(金) 仕事始め
- 6日(日) 出初め式
- 7日(月) 移動図書館
- 8日(火) 3学期始業式
大掃除, 身体計測
- 11日(金) 命を大切にすることを育む日
- 14日(月) 【祝】 成人の日
- 16日(水)~17日(木)
基礎基本学力調査
- 17日(木) 授業参観、学校・学級PTA
- 21日(月)~27日(金)
家庭学習強調週間



台風による大水で流された恐怖を生々しく述べている。これを読んでも瀬々野浦の人々は、自然との闘いの連続であったことが分かる。

《後省略》

昭和二十年十月十日、朝起きてみて八日以来降り続いた雨は止まなかったが、そのまま登校した。二時間目までは勉強したが雨はますますひどくなったので、先生方は心配なさって「上学年は下学年をよく見守って家に帰るなさい。」とおっしゃったので私たちはどしゃぶりの雨の中を家に帰った。

いよいよ雨は強く降り出し、私の家の水道を越えるくらいになった。

《途中省略》

どうしようかとあわててふたにく中に、押し寄せた水のために家族六人とも家と共に隣の畑まで流された。気がついてみると、不思議に止まっている。私は、どろ水が口や鼻に入ってくると思って息を止めていた。けれどもあまりの苦しささに死んでもいいと思っただけで、息をした。その時はもうこれきりだと思っただけで、弟が運良く柱の上に乗っていたので、私の手を引いてくれた。

台風被害について

瀬々野浦は、これまで台風により甚大な被害を受けたことが度々ある。昭和二十年の「阿久根台風」の時、被害にあった体験を当時小学生だった児童が作文に書いたものがあるので一部紹介する。

学校の歴史パート18